

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390100406 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 朋友会 | | |
| 事業所名 | グループホームたけべ | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区建部町建部上557-2 | | |
| 自己評価作成日 | H21年12月28日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100406&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社東京リーガルマインド | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成22年1月30日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|----------|
| 温泉をひいている |
|----------|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| 岡山市の北端部に位置し、緑豊かな環境に恵まれ、ケアハウス、デイサービス、ヘルパーステーションなどの関連施設の併設もあり、介護福祉施設として地域の貢献に一役を担っている。「八幡温泉郷」からホームに温泉の湯をひいており、神経痛やリュウマチに有効といわれるラドン含有の湯に入浴出来る。隣接するケアハウスたけべの里との交流スペースも利用でき、地域の方と共にイベントを楽しむことが出来る。玄関周りの飾り窓にはスタンドグラスが施され、外の光が明るく差し込んでおり、好天の日には周囲にある花壇や菜園まで散歩が楽しめる。入居者一人ひとりの残存能力を引き出す自立支援が工夫され、張り合いや喜びを感じられる生活の場としての環境づくりをしている。 |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念をどの職員も見えるように掲示し、それに伴ったケアを実施するように心がけている | 管理者と職員は、「入居者の尊厳を重視し、家庭的な雰囲気作り、残存能力を生かした自立支援、地域の中でその人らしく生活できるよう地域に溶け込んだホーム」を目指し努力していることが職員の利用者に対する言動、記録などから伺えた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 施設で行う行事に、地域の方を招待したり、ボランティアで来ていただき、入居者との交流を図っている | 近隣の方を夏祭に招待したり、地域の祭りにも利用者が出掛けたりしている。ボランティアの方が来られ舞を披露したり、日頃から、畑や花壇の手入れに来てくれたりしている。利用者が一人で外へ出られた時は、知らせてくれたりもしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実習生の受け入れをしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現状の報告をして、それに対するの質問や意見があれば、発言していただき、活かすようにしている | 運営推進会議は1回/2ヶ月開催されている。ホームの運営状況やイベントを報告し、家族や地域の方からの意見を伺い、サービスの向上に反映させるようにしている。その時その時に必要な課題が議事録に記録されていた。 | 運営推進会議の議事録は一部の家族だけでなく、皆で見られるホームの玄関などにも掲示公開してはいかがでしょうか。ホームへの理解と協力が深まり、更にサービスの向上に繋がると思われます。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域ケア会議に出席し、各事業所間での情報の共有・交換をしている | 地域ケア会議には市の包括の方や、各施設職員が参加され、運営状況やイベント、困っていることなどを持ち寄って、市の意見を聞いたり、介護保険制度の変化について分からないことは指導を受けたり、日頃から協力関係を築くよう努力している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠はやむを得ずしているが、身体拘束についての勉強会を実施し、その他の身体拘束に当たる行為はしていない。 | 川があったり、大型バスも通るなどで施錠したが身体拘束に関する研修会への参加、マニュアルの見直し等で拘束廃止を常に意識している。入居者が外へ出そうな時はついて行き見守るなどで、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | マニュアルを作成し、それに伴った職場内での研修会(勉強会)を実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | まだできていない | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にはできるだけ詳細に説明することを心掛け、質問を受けたことに関しては、納得いただけるように返答するようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会での意見交換を実施したり、玄関先に御意見箱を設置している。 | 運営推進会議や家族会で事業報告し、意見交換したり、意見箱で苦情を受け付ける等で、利用者家族の要望を汲み上げ、運営に反映させている。国保連や市役所の介護保険課など外部でも苦情受付していることを重要事項で説明している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議を定期的実施し、意見を交わしているが、すべてを把握しきれていない部分もある。 | 定期的に職員会議が開催され、職員、設備、問題点、今後の取り組みなどについて検討している。研修会に参加する場合、希望休を聞いたり交通費等を支給するなど常に職員の要望を聞き、やりがいのある運営に繋がるよう工夫している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 休憩時間過ごす休憩室を設けたり、介護職・一般職・時間給職問わず処遇改善手当を支給している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会に参加する場合、希望休を聞いたり交通費等を支給している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域ネットワーク会議に参加したり、近隣にあるグループホームとの交流(見学・意見交換)を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | できるだけ、本人とコミュニケーションを取るように心掛け、不安や希望を聞きだし、対応できるように心掛けている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | インテークの時点で、ご家族の方とも話をし、本人の事(家族の思い)を聞くようにしている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームでのケアが厳しいと判断された場合には、他の事業所の紹介をしようとしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯ものを干したり畳んだり、部屋や共有スペースの掃除をしてもらっている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員だけでなくご家族にも相談・報告し、できる事はしていただけるように、お願いしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご近所だった方の面会や、散歩時の再会で、関係が途切れないようにしている | 行きつけの散歩コース、遊歩道などがあり、「めだかの学校」など地域との継続的な交流の接点がある。受診の帰りに家の周りに寄る、家族とのお墓参りや、お盆に外泊するなど、本人の馴染の場所や人とのふれあいを維持するよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲のいい方や関係の微妙な方を把握し、できるだけ、トラブルのないように関わりあえる環境を作れるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居した方のご家族に、その後の様子などを聞き、相談事があれば、できる限り対応している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | インテーク時に聞いた事は把握し、十分に聞けなかった場合には、入居後も家族や関係者と話をし、聞くようにしている | 入居時に本人の生活習慣や趣味を聞くと共に、家族以外の馴染みだった方や友人の面会時に、以前の様子を聞いたり、どこでどのように暮らしたいか、誰にあいたいかなども聞いて、本人の暮らし方の希望や思いを把握し、サービスに活かしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前のインテークで本人やご家族に生活歴を聞いたり、入居後は馴染みだった方や友人の訪問があった時に、以前の様子を聞いたりしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活パターンを把握し、個々にあった対応ができるよう、把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人に対して気になることがあれば、ご家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員間で意見交換を行っている。 | その人らしい暮らしが出来るための利用者主体の暮らしを反映した計画になるよう目標を立て、2月毎にケアカンファレンスを行い、本人の変化や家族の要望に応じた計画になっているか、見直し評価をするよう努力している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録をして、気になるころがあれば、個別のカンファであげて、今後の対応を考えるようにしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 急な外出・外泊等の対応や、通院時の送迎等にできるだけ対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内の行事等の個人単位で楽しめるものに参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医院に往診や受診をお願いし、緊急時にも連絡し、対応をしてもらっている。入居前に掛かっていた病院等との関係も、希望される限り続けられるよう支援している | 入居者の希望を最優先にし、以前からのかかりつけ医を受診されている方もいる。クリニックによる2週間毎の往診がある。協力病院により緊急時に24時間体制で対応でき、家族への連絡も密にしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が、常勤として勤務しているので、異変があればその都度相談して対応している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族や、病院関係者と入院時の状況の確認や、退院の目処がついた場合、迅速に対応している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期について、入居時に書類を用いて説明し、できることに限度があることを伝え、そのような状況になる可能性があるご家族とは、事前に今後の対応について話し合いを設けるようにしている | 入居時に重度化した場合にホームで出来ることと出来ないことを説明し、「看取り指針」を設け希望者には本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡を取り、安心して納得した最後を迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。医療行為の必要な方は医療機関へ搬送している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心肺蘇生の講習を受けたり、緊急時のマニュアルを作成している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、消防署・業者立会い元、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。 | 火災報知機、火災通報装置があり、年2回防災訓練を行っている。災害時には、日中、夜間を問わず、隣接した指定特定施設入所者生活介護施設に非難する誘導體制が確保されている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々に以前に働いていた立場や地位が違うので、その方に合った声かけをするように心がけている。 | その人らしい尊厳ある姿を大切にすよう、呼称以外に、言葉の内容や語調が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか。常に意識していることが職員の言動から伺えた。守秘義務や認知症ケアの行動指針もある。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の内容や、外出(散歩等)やレク等の参加は個人に決めてもらうようにしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | できるだけ、個人のペースを尊重し、散歩や行事・レクといった集団行動の時には、本人の意思に任せるようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装は、個人が持参したもので、その中から本人に確認して、着るものを決めるようにしている。1～2カ月に一度、ホームカット(散髪)に来てもらっている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理の下ごしらえ、下膳、皿洗い等をしてもらったり、同じ食卓で職員も食事をしている。菜園の野菜と一緒に収穫し、食材として使用している。 | 料理の下ごしらえを職員と共に行ったり、食後のテーブル拭きなど出来る方には役割を持てるよう支援されていた。職員も共に食べられ、楽しく語らいながらの昼食であった。給食委員会を月に1回もち、利用者の好みに合わせるようにしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々によって量や形態、好き嫌いがあるので、それを把握し適したものをだして、食事量も確認している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声かけをしたり、出来ない方には誘導して、口腔ケアをしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定時の声かけや、ある程度時間がたった方にはトイレへの声かけしている | 排泄チェック表を使用し、排泄と水分摂取の把握をしている。食事前、おやつ前、入浴前にはトイレ誘導し手洗いもしている。夜間もトイレ誘導しており、個々に合ったタイミングと個別支援内容により、排泄の自立に繋がる工夫をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄状況を記録し、ラジオ体操を含めた日々の運動や、乳製品の摂取など、個人の要望に応じた予防をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日を決めているが、その日の状況で入る日や順番を、変更している | 温泉の湯を引いての入浴で、基本的には午後入浴であるが、利用者の状態に合わせて必要時夜間入浴にも対応出来る体制はある。浴室・脱衣室にも暖房が入っており、湯船に入れない方に足浴しながら、シャワーをすることもある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣を把握し、できるだけ日中の活動を促すように声かけや誘導をしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬している薬の種類や効能・副作用が分かるようにファイルにとじて、いつでも閲覧できるようにしている。服薬時には、手渡しし確実に服用するようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人個人の得意な事をしてもらうようにしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩に出かけたい方が多いので、できるだけ、外出するようにしている。時々ドライブや外食に行っている | 日常的な花畑や遊歩道など周辺の散歩以外に、精米で出掛ける時に希望者に便乗して頂いたり、旭川ドライブインやすぎ茶屋へ外食に出掛けたりなど入居者の気が向いた時に気軽に出かけることを支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員ではないが、個人でお金の管理ができる方は、新聞代や医療費等を自分で払われたり、散歩の途中で、店によって買い物をしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や友人から手紙があった場合には本人にお渡しし、できるだけ返信するように声かけしている。連絡したいことがある場合は、電話を使ってもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルに季節の花をおいて季節感を出すようにしたり、季節の貼り絵や壁面画作りをしている | ホールやキッチン・浴室と車椅子の移動にも十分なスペースがある。トイレも2部屋毎にあり利用者が使いやすいように出来ている。共有空間には随所に季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気、ゆっくりとくつろげる。ホームの周りには花壇や菜園があり、散歩や野菜畑を見るのも楽しい。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | スペースが狭いので、一人にはなりにくいが、利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。できるだけ、趣味や嗜好の合う方と過ごせるよう、席の配慮をしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | できるだけ、自宅で使用していたものを持ってきていただくようにしているが、居室が狭いので、ご家族と相談し、できるだけものは持ってきていただくようにしている。 | 居室は洋風でレンタルの電動ベッド以外は、それぞれが使い慣れた、タンスや化粧箱、テレビ、座椅子、家族の写真などを持ち込み、中には仏壇やお位牌もあり、くつろげる個人の部屋になっている。可愛がっていたお人形が飾られ、心癒される。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯ものをたたんだり、料理の下ごしらえをしてもらっている | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390100406 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 朋友会 | | |
| 事業所名 | グループホームたけべ | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区建部町建部上557-2 | | |
| 自己評価作成日 | H21年12月28日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|----------|
| 温泉をひいている |
|----------|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100406&SCD=320 |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社東京リーガルマインド | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成22年1月30日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 運営理念をどの職員も見えるように掲示し、それに伴ったケアを実施するように心がけている | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 施設で行う行事に、地域の方を招待したり、ボランティアで来ていただき、入居者との交流を図っている | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 実習生の受け入れをしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現状の報告をして、それに対する質問や意見があれば、発言していただき、活かすようにしている | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域ケア会議に出席し、各事業所間での情報の共有・交換をしている | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠はやむを得ずしているが、身体拘束についての勉強会を実施し、その他の身体拘束に当たる行為はしていない。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | マニュアルを作成し、それに伴った職場内での研修会(勉強会)を実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | まだできていない | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にはできるだけ詳細に説明することを心掛け、質問を受けたことに関しては、納得いただけるように返答するようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会での意見交換を実施したり、玄関先に御意見箱を設置している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議を定期的実施し、意見を交わしているが、すべてを把握しきれない部分もある。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 休憩時間過ぎず休憩室を設けたり、介護職・一般職・時間給職問わず処遇改善手当を支給している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会に参加する場合、希望休を聞いたり交通費等を支給している | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域ネットワーク会議に参加したり、近隣にあるグループホームとの交流(見学・意見交換)を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | できるだけ、本人とコミュニケーションを取るように心掛け、不安や希望を聞きだし、対応できるように心掛けている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | インテークの時点で、ご家族の方とも話をし、本人の事(家族の思い)を聞くようにしている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームでのケアが厳しいと判断された場合には、他の事業所の紹介をしようとしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯ものを干したり畳んだり、部屋や共有スペースの掃除をしてもらっている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員だけでなくご家族にも相談・報告し、できる事はしていただけるように、お願いしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご近所だった方の面会や、散歩時の再会で、関係が途切れないようにしている | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲のいい方や関係の微妙な方を把握し、できるだけ、トラブルのないように関わりあえる環境を作れるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居した方のご家族に、その後の様子などを聞き、相談事があれば、できる限り対応している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | インテーク時に聞けた事は把握し、十分に聞けなかった場合には、入居後にも家族や関係者と話をし、聞くようになっている | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前のインテークで本人やご家族に生活歴を聞いたり、入居後は馴染みだった方や友人の訪問があった時に、以前の様子を聞いたりしている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の生活パターンを把握し、個々にあった対応ができるよう、把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人に対して気になることがあれば、ご家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員間で意見交換を行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録をして、気になるころがあれば、個別のカンファであげて、今後の対応を考えるようにしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 急な外出・外泊等の対応や、通院時の送迎等にできるだけ対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内の行事等の個人単位で楽しめるものに参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医院に往診や受診をお願いし、緊急時にも連絡し、対応をしてもらっている。入居前に掛かっていた病院等との関係も、希望される限り続けられるよう支援している | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が、常勤として勤務しているの、異変があればその都度相談して対応している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族や、病院関係者と入院時の状況の確認や、退院の目処がついた場合、迅速に対応している | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期について、入居時に書類を用いて説明し、できることに限度があることを伝え、そのような状況になる可能性があるご家族とは、事前に今後の対応について話し合いを設けるようにしている | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 心肺蘇生の講習を受けたり、緊急時のマニュアルを作成している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、消防署・業者立会い元、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々に以前に働いていた立場や地位が違うので、その方に合った声かけをするように心がけている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 食事の内容や、外出(散歩等)やレク等の参加は個人に決めてもらうようにしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | できるだけ、個人のペースを尊重し、散歩や行事・レクといった集団行動の時には、本人の意思に任せるようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装は、個人が持参したものであるので、その中から本人に確認して、着るものを決めるようにしている。1～2カ月に一度、ホームカット(散髪)に来てもらっている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理の下ごしらえ、下膳、皿洗い等をしてもらったり、同じ食卓で職員も食事をしている。菜園の野菜を一緒に収穫し、食材として使用している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々によって量や形態、好き嫌いがあるので、それを把握し適したものをだして、食事量も確認している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声かけをしたり、出来ない方には誘導して、口腔ケアをしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定時の声かけや、ある程度時間がたった方にはトイレへの声かけしている | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄状況を記録し、ラジオ体操を含めた日々の運動や、乳製品の摂取など、個人の要望に応じた予防をしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日を決めているが、その日の状況で入る日や順番を、変更している | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣を把握し、できるだけ日中の活動を促すように声かけや誘導をしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬している薬の種類や効能・副作用が分かるようにファイルにとじて、いつでも閲覧できるようにしている。服薬時には、手渡しし確実に服用するようにしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個人個人の得意な事をしてもらおうようにしている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩に出かけたい方が多いので、できるだけ、外出するようにしている。時々ドライブや外食に行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員ではないが、個人でお金の管理ができる方は、新聞代や医療費等を自分で払われたり、散歩の途中で、店によって買い物をしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や友人から手紙があった場合には本人にお渡しし、できるだけ返信するように声かけしている。連絡したいことがある場合は、電話を使ってもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルに季節の花をおいて季節感を出すようにしたり、季節の貼り絵や壁面画作りをしている | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | スペースが狭いので、一人にはなりにくいが、利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。できるだけ、趣味や嗜好の合う方と過ごせるよう、席の配慮をしている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | できるだけ、自宅で使用していたものを持ってきていただくようにしているが、居室が狭いので、ご家族と相談し、できるだけものは持ってきていただくようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 居室・トイレ・浴室の目印をつけ、特に他の入居者の部屋に入らないように配慮している | | |